

船橋市議会議員

立憲民主党

みっはし

三橋さぶろう

議会活動報告



夜間中学校が必要

皆さんは「夜間中学校」をご存知でしょうか？ 夜間中学とは公立中学校の夜間学級であり、かつては戦後の混乱期に生活していくのが大変で義務教育を終了できなかった人たちに、教育の機会を提供できるようにと始まったものであります。

その後は社会情勢が変わり、全国にあった夜間中学校は減少傾向でした。しかし近年、文部科学省が夜間中学校の設置を推奨しており、徐々に増えてきています。千葉県内では、もともと市川市に1校ありましたが、平成31年からは松戸市にも開校し、令和5年4月には千葉市にも開講する予定だと聞いています。

この夜間中学校を文部科学省が設置を推進し、社会的に必要とされているかという点と様々な背景があります。第一にあげられる理由は不登校です。残念ながら平成22年度の長期欠席する児童生徒は全国で約17万7千人でしたが、令和2年度は28万7千人と約11万人も増えています。小中学校では卒業のために必要な出席日数が足りなくても、教育的配慮で卒業できるのがほとんどです。しかし十分な学力（裏面へ続く）

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県木島平生まれ(44歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業
株式会社カネボウ
江東区健康スポーツ公社
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 初当選
- 2019年 2期目当選
- 特技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルレクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 船橋市消防団20分団2班 所属
- 好きな言葉: 出来ることからコツコツとやる
- 家族: 妻と特別支援学級に通う息子(小学生)、娘(幼稚園)の4人家族
- 趣味: 子どもと散歩

(表面から)

が身につけていない場合もあり、こうした方たちが学び直す場として夜間中学校が必要とされています。

また近年「ヤングケアラー」と呼ばれる問題があります。本来は大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを、日常的に行っている子どもがいる問題です。子どもらしい生活が出来ないばかりか、ケアする方から離れられず学校に行けない場合もあります。船橋市教育委員会ではヤングケアラー実態調査を行いました。調査の速報では回答した22,764人のうち4.8%が「世話をしている家族等がいる」と答えています。現にヤングケアラーで困っている児童生徒は福祉サービスにつなげ助けを必要とありますが、かつては自身がヤングケアラーだったため、学校で十分勉強できなかった方も、夜間中学校あれば学び直すことができます。

令和2年の国勢調査では、小学校を卒業していない人は日本国内に約9万人いるとあります。また中学校を卒業していない人は約80万人もいるとの驚きの調査結果となっています。このような何らかの事情で、義務教育の機会を十分に得られなかった人たちに、学びの機会確保のためこの夜間中学校がいま必要とされています。

こうした中、船橋市内でも自主（民間）夜間中学校を来年4月に設置する活動をはじめている団体があり、私も勉強会に参加させていただきました。この取り組みをされている方に敬意を表し私も応援します。が、私としては公立の夜間中学校も作るべきだと思います。自主夜間中学校は主に民間の方が行い、幅広い教育を提供してくださるので、教育を受ける側としては選択肢が広がりとても有益です。そして公立の夜間中学のように週に5日出席する必要もなく、その人の生活スタイルに合わせて学ぶこともできるので、とても使い勝手がよいと聞きました。しかし唯一、自主夜間中学校には越えられない壁があります。それはいくら自主夜間中学校で学んでも、公的に中学校を卒業したと認められません。高校や大学、各種専門学校に進学できないのです。私は船橋市教育委員会に空き教室などを活用し、公立の夜間中学校を設置するよう求めていきたいと思っています。

船橋市議会議員 三橋さぶろう

〒274-0063 船橋市習志野台2-4-13 ネスト12 101

電話：047-402-2810 FAX：050-3488-3190

E-mail：funabashi@mituhashisaburo.jp

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。